

12 地方のがん専門病院における後期高齢者の緩和ケア

齋藤 義之・丸山 美香*・江口 裕子*
大滝麻由子**・佐々木奈穂**
名和 淳***

県立がんセンター新潟病院緩和ケア科
同 看護部*
同 薬剤部**
同 地域連携・相談支援センター***

【目的】高齢化社会における地方のがん専門病院の現状と課題を明らかにする。

【方法】当科介入がん患者 305 例の内、75 歳以上の後期高齢者 39 例について検討した。

【結果】PS2 以上（要介助）：89.7 %。がん治療歴あり：100 %。がん治療施行中・施行予定あり：33.3 %。主訴：疼痛；43.6 %，不安；41.0 %，食欲不振；10.3 %，せん妄；7.7 %，療養場所の悩み；7.7 %。最も多かった対応：鎮痛薬に関する主治医への助言；35.9 %。転帰：経過観察中；2.6 %，中止；97.4 %（内訳：他施設紹介；43.6 %，死亡退院；41.0 %，主科継続中；12.8 %）。死亡退院症例居住地：市内（施設所在地）；87.5 %。

【考察】当院は緩和ケア病棟を有していないが、「がん治療終了後も地域住民にとっては症状緩和や看取りの場となっている」という現状が明らかになった。「院内でサポर्टティブケア・ターミナルケア両者の質向上を図ることと、専門病院としての機能が適切に発揮できるよう地域連携を深めること」が喫緊の課題であると思われた。

13 新潟がんセンター小児科における治療関連二次がんの発生の実態調査

浅見 恵子・小川 淳・渡辺 輝浩
高橋みのり

県立がんセンター新潟病院小児科

小児がんの治療成績の向上はめざましいが、一方種々の晩期合併症が明らかになりつつある。特に生命予後に直接関係するものが二次がんであ

る。しかし、本邦でのその発生率や背景はいまだ明らかではない。がん臨床研究事業の一環として当科でも調査を行った。1978 年 1 月 1 日～2012 年 12 月 31 日までの 35 年間に当科で入院治療した小児がん患者は 664 名でそのうち 12 名（1.80 %）に二次がんの発生を認めた。これらの症例の背景を検討したので報告する。

14 pⅡ・ⅢA 期非小細胞肺癌に対する GEM + CBDCA を用いた術後補助療法の長期成績

篠原 博彦・古泉 貴久・青木 正
吉谷 克雄

県立がんセンター新潟病院呼吸器外科

【目的】当科では非小細胞肺癌病理病期Ⅱ期・ⅢA 期の術後補助化学療法として GEM + CBDCA を第一選択として施行。今回長期成績も含めて有効性を検証。

【対象と方法】2004 年から 2009 年の間に投与した 81 例。生存率（OS）・無再発生存率（RFS）・予後不良因子等につき検討。

【結果】組織型 Ad 54 例，Sq 19 例，その他 8 例。病理病期ⅡA 29 例，2B 6 例，ⅢA 45 例。薬剤投与回数は 3 コース 74 例で完遂率 91.4 %。G3 以上の有害事象は好中球減少 49 例，血小板減少 20 例，貧血 5 例，治療関連死なし。5 年 OS は 55.5 %，5 年 RFS は 37.3 %。完遂例と非完遂例の 5 年 RFS は 40.5 % と 0 % で有意差あり。OS・RFS とともに多変量でⅢA 期が予後不良因子（OS $p = .0378$ ，RFS $p = .0038$ ）。

【結語】GEM + CBDCA は完遂率が高く，認容性に優れていた。予後の面からは完遂することが重要。しかしまだ十分な成績とは言えず，特にⅢA 期症例ではさらなる薬剤の検討も必要。